



武山政直教授

専門：経済地理・サービスデザイン

ン

(インタビュアー：徳武・三須・松沢)

『時代の変化に合わせた サービスを創る』

Q. 武山先生の専門とされている研究内容はなんですか？

新しいサービスを創る研究をしています。今までの日本経済はどちらかというともものづくりが中心でしたが、今現在どんどん経済がサービス化していく中で、時代の変化に合わせたサービスが必要になっており、時には国境を越え、グローバルなビジネスとして海外に展開していくサービスの作り方・方法を研究しています。もともとは、経済地理が専門ということで、都市空間においてモバイル、スマートフォンが街の中の人々の生活をどう変えるのかということの研究していましたが、現在はこれからの日本社会において、サービスをビジネスとして盛り上げていくために、「どんなサービスを生み出していけばいいのか、どうやって生み出していけばいいのか」ということを、実際に3～4社の企業さんと一緒にサービスを創りながら考えるという実践的な研究となっています。そして、大学の中でやっていることですから、インターンやビジコンと同じようなことをやっていると意味がないとも考えています。単にいいアイデアが出ておしまいではなく、メソッドを意識して、今の日本社会に何が求められるのかを考え、一回だけの思いつきに留まらない時代のニーズに合わせたサービスを創り上げたいです。

『学ぶ側が価値を生み出す！！』

Q. 武山先生の教育理念を教えてください

知識を教えることも重要ですが、大事なのは「学ぶ側が価値を生み出す、知識生産をする」ことであり、その場を提供したり、テーマを一緒に考えたりなど

のサポートはしますが、あくまでもアウトプットは学生が主体的に行うことを意識しています。講義の場合は大多数の学生が相手なので、そこでインタラクティブにやろうとしても限界はありますが、ゼミなどの少人数制の講義ではその点を意識しています。

『学生時代のゼミも少し変わっていた』

Q. 武山先生の学生時代のお話を聞かせてください

僕は学生時代に少し変わったゼミに入っていました。計量地理学というゼミなんですけど、もちろん計量地理学の勉強もしてましたけど、常に「学びとは何か」や「知とは何か」を追求されている先生でして、いろんな学び方の実験もしましたし、フィールドワークやコンピューターを使った学習もしました。そこで人間にはいろんな知のモードがあること、学びには多様性があり楽しいんだということを実感しました。それからアメリカのカリフォルニア大学に留学し学位を取り、教員としては慶應のSFCがスタートです。当時のカリフォルニア大学の地理学部もオーソドックスではなく、私は学生生活を通して既存の学問では解けない問題にぶつかったときの苦労や喜びを経験しました。「～学」という一つの学問を究めるタイプではなく、いろんな分野・学問を結びつけていくというのが私のスタイルですね。

『熱中力が大切！！』

Q 武山ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

まずは武山研究会の活動をよく見てください。そして、何かに熱中できることが大切なので、熱中力を持った学生に来てもらいたいです。何か特別な知識がないとダメというような積み上げ型のモデルではないので、とにかく本能的に何かやりたいことに熱中し、はまってしまうような人を求めています。

『自ら歴史と向き合おう！！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

政治とか経済にかかわらず、世の中の大きな動きに対して興味を持ってほしいです。そしてさらにはそれが身近な出来事とリンクしているとよいです。正解はないのでこれからの日本の社会や世界にどう貢献することができるのかを柔軟に考えて行ってほしいです。大きいスケールで広い視野を持って考えられる

人が増えればいいなと思います。既存のものはこれから崩れていく可能性を感じています。だからこそ逆に変えるチャンスという意識を持って面白いことをしてほしい。どうしても学生時代は世の中に自分を合わせがち、そうではなく世の中の方が大きく変わる時代であるからこそ、自分が持っているものこそが正しいのかもしれない。今の日本は情報社会であり、こうした情報で溢れている世の中を生き抜くためにも自分のテーマ（問題意識・ものさし）を持っていることが重要です。

【編集後記】

数ある経済学部の研究会の中でも1, 2を争う人気ゼミである武山研究会のテーマは「新しい価値を生み出す」です。それはまさに武山教授が学生時代から頭においてきたものであり、我々にとっても非常に重要な考えでした。今回インタビューをさせて頂くことで、2年生へのゼミの紹介に留まらない貴重な経験をさせて頂きました。

お忙しい中、インタビューにご協力下さり、ありがとうございました。